



士別ロータリークラブ会報

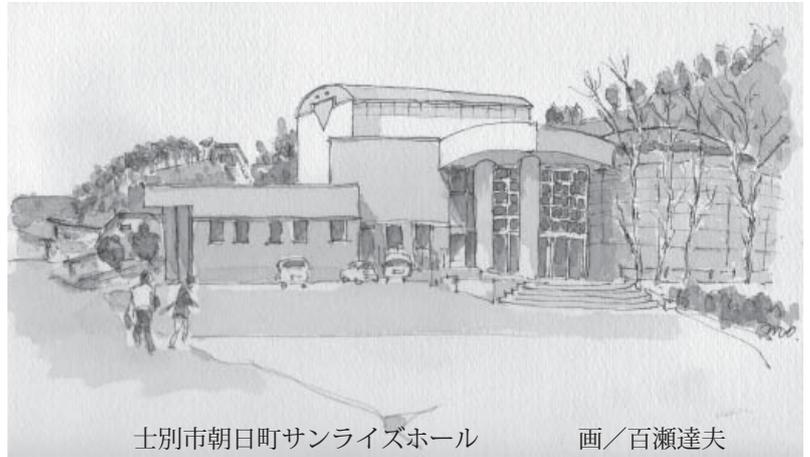
創立 1960・3・24 RI 第 2500 地区

Vol. 017 No. 2159



率先しよう

2006～2007 年度 RI 会長
ウィリアム ビル・ボイド



士別市朝日町サンライズホール 画/百瀬達夫

第 2238 回例会 2006 年 11 月 27 日(月)

本日のプログラム

- ・夜間例会

例会場/士別グランドホテル
 例会日/毎週月曜日 12:10～13:10
 事務所/士別グランドホテル
 TEL 0165-23-1234

会長/大塚 勝 人
 副会長/野崎 英 男
 幹事/菊地 博

■前 回 (11 月 20 日、月曜日) の記録■

- ・早朝例会 (第 2237 回例会、出席率 100%)

■前 回 (11 月 13 日、月曜日) の記録■

- ・普通例会

司 会 若森 孝会場監督
 斉 唱 我等の生業

本日の出席 出席率 73.1% 会員 67 名中 出席者 49 名

本日の欠席 阿達 勇、犬伏彰吾、今井忠則、扇谷雅樹、河原賢治、菊地 博、黒田康敬、
 笹野孝志、田中 全、谷 温恵、中村徹雄、鍋島 秀、南部哲男、藤吉敏博、
 松塚信雄、渡辺正一、渋谷知宏、福澤丹治

メイクアップ
 ビジター
 ゲスト
 ニコニコBOX

累計 152,000 円

例 会 予 定

12 月・家族月間

12 月 4 日 (月) 普通例会・年次総会・理事会
 12 月 11 日 (月) ファミリーパーティー (夜間例会)
 12 月 18 日 (月) 普通例会
 12 月 25 日 (月) 普通例会

1 月・ロータリー理解推進月間

1 月 1 日 (月) 休会 (法定休日)
 1 月 8 日 (月) 休会 (法定休日)
 1 月 15 日 (月) 普通例会・理事会
 1 月 22 日 (月) 普通例会
 1 月 29 日 (月) 夜間例会

■会務報告 大塚勝人会長

●土曜、日曜と一泊で定山溪温泉へ行ってきました。朝、外を見ると銀世界に変わっていました。車はすでにスノータイヤに履き替えてあったので心配はありませんでしたが、高速道路が大変走りにくく苦勞しました。私が走った時間帯はまだそんなに雪が積もっていませんでしたが、その後走った人の話を聞くと何台も追い越し車線で事故をおこしていたようです。これから走りにくくなりますがどうか事故をおこさないよう気をつけてください。

●交通事故で入院していました田中全会員が退院しました。まだ、ギブス・コルセットを着けていますので、自宅療養後、例会に出席しますとの事です。

●先週6日例会終了後、理事会を開催いたしました。扇谷会員の退会について慎重審議致しましたが、本日迄の貢献等を考慮し扇谷会員が希望する今年度終了をもって退会にする事に決定しました。

●指名委員会の発足について審議しましたが、パスト会長会に一任することに決定しました。7日パスト会長会総会を開催していただきました。パスト会長会の役員はクラブ会長就任年度順でなっていますので、2007～2008年度会長は西條輝光会員、副会長に武田修会員、江端捷浩会員に決定しました。指名委員会の設置について審議していただきました。佐藤安司会員、西條輝光会員、武田修会員、私大塚と本山忠之会長エレクトに決まりましたので、皆様にご報告申し上げます。これより2007～2008年度、会長ノミニーの選出とクラブ役員を選出をするわけですが、パスト会長会の中でもお話がありました。奉仕の理想を目的として入会されているロータリークラブの会員は、役員が指名がありましたら、快くこれを受けのべきであります、又他の会員の皆様には新体制へのご協力を心よりお願い致します。

■幹事報告 千葉 繁夫副幹事

①後程委員会報告でも有りますが、12月11日士別RCファミリーパーティー開催に伴います・参加申し込みにつきましては、お手元の案内文書兼申し込み書を、よく見て頂き・12月4日の第1例会までに親睦活動・家族委員会まで申し込みをお願い致します。

②士別地区ぬくもり会福万千代子会長より、11月22日(水)午後6時士別市民文化センター1階研修室において、ぬくもり会40周年記念感謝の集い、開催に於けるの会券購入のお願いが参っております、1枚1,500円ですが、クラブで500円を負担させていただきますの

で、1,000円の協力をお願いし、参加をお願い致します、後程テーブルを廻らせて頂きますので、宜しくお願い致します。

③名寄、美深RCよりクラブ会報並びに11月例会案内が届いております、入り口資料テーブルに置いて御座いますので、ご一読願います。

④1月の例会並びに対外的事業予定の案内です。1月1日の例会は、法定休日です。8日の例会も法定休日です、15日普通例会～理事会29日夜間例会です。尚・1月5日(金)午後5時より士別グランドホテルにおきまして、士別市、士別商工会議所、JA北ひびき農協、合同新年交礼会予定されて御座います。

⑤次回11月20日の例会は、早朝例会と称し休会とさせていただきますので、お間違えのないようお願い致します。

★委員会報告

◎親睦活動家族委員会 尾崎 学委員長

12月11日午後6時から士別RCファミリーパーティー開催致します。申込みの締切につきましては12月4日の第1例会としてありますが、出来れば11月27日の夜間例会までに出して頂ければありがたいです。宜しくお願いいたします。また、先着3から5名以内で余興の出場者を募集致していますので当委員会までお申し付け下さい。

◎プログラム委員会 神田英一委員長

今月は財団月間と言うことで大野ロータリー財団委員長に卓話をお願い致していますので後ほど宜しくお願い致します。

★会員卓話

◎ロータリー財団委員会 大野裕一郎委員長

本年度は会員皆様に当ロータリー財団委員会に対し充分にご理解を頂いておりますが、よりいっそうご理解頂けるように私の分かる範囲で説明致します。本日資料を4枚にまとめて皆様に配布致しましたが時間の関係で端折りながら説明致しますので宜しくお願い致します。

8月20日に紋別でセミナーがございました。セミナーの冒頭ガバナーの挨拶の中で、将来ロータリーの果たす役割は非常に多く成る状況に有ります。財団の必要性和将来の有るべく姿と言うのが問われています。それと同時



にロータリアン1人1人の奉仕に対する意識と言うのが重要で有ると言う内容のごあいさつがありました。その後財団の方から財団近況と言うことで講演があり、その後ロータリーの寄付と財団のプログラムと言うことでそれぞれ担当者から説明と報告があり、最後に年次寄付の国内パストガバナーからRI 2500地区のクラブ別会員の寄付率速報と言うものをご紹介して頂きました。寄付率の高いクラブの発表がされ、第2分区につきましては士別ロータリークラブが紹介され、個々の会員の意識の高さが非常に数字に表れていると言うことで評価をされていました。

○ロータリー財団は1917年(大正6年)～米国アトランタ国際大会において、ア・チ・クラフが「全世界的規模でよりよき事をする為に基金をつくろう。」と提案し26ドル50セントのクラブ寄付から始まりました。しかしながら、基金として創始以来、その後、30年間低迷した財団でありました。1947年(昭和22年)1月～ポール・ハリスが逝去し1948年6月までに130万ドル(≒¥150,000,000)の寄付が集まりました。

財団は、この寄付で最初の国際親善奨学金プログラムを実施、7カ国から選ばれた18名の奨学生に大学院過程奨学金を授与しました。以来財団が飛躍的に進展する。1965年(昭和30年)～人道的分野のマッチング・グラントが開始され財団活動の展開が大きく拡がりました。「ロータリー財団」の管理運営は私達1人1人の会費の中から年間47ドル、約5,500円が一般会計から国際ロータリーへ送付され、運営資金に成っています。初代管理委員長はア・チ・クラフで、国際ロータリーのロータリー財団はRI会長が任命し、RI理事会が承認した15名の管理委員(うち4名はRI元会長、日本人は(埼玉県八潮ロータリー・クラブの)田中作次氏を含む11カ国の委員。任期は4年'06～'10)によって運営されています。RI理事会と財団管理委員会は緊密に協力し、合同の常任委員会で共通の関連事項を審議(年4回)しています。内容については資料をご参照下さい。

ロータリー財団運用システムについてですが、まず、財団の収入財源は年次プログラム基金、年次寄付と恒久基金寄付が2代柱であり、これに付随して用途指定寄付があり、今現在は3本柱の中で収入財源に成っています。年次寄付は寄付の基盤であり財団プログラムを継続させる為の燃料であり毎年目標額を決めて行っています。今年度の目標額は1億2千万ドルを目標額に設定しています。(ロータリーメンバ約120万人×100ドル)実際の達成率は目標額の7～8割位です。使い道を指定することなく、財団に寄付。3年間投資運用さ

れ、3年後に使用される。この運用収益は財団事務局の運営費、プログラム管理費、寄付増進費に使われます。寄付者が1,000ドル寄付しますと認証と言うことでポール・ハリス・フェローに認証授与されます。これが2,000ドル、3,000ドルと成っていききますとマルチプル・ポール・ハリス・フェローの認証が授与されます。恒久基金寄付は金額を問わず、いくらでも寄付する事ができる。この基金の元金は決して使いません、資産運用してその収益は財団のプログラム支援に使います。これの寄付が1,000ドルに達しますとベネファクターの認証が与えられます。

ポリオ・プラス基金は時の経過とともに失効するか、あるいは条件には明記された目的が果たされた時点で解消する寄付。使用が制限されている純資産。投資方法は恒久基金寄付・年次プログラム基金についてはアメリカ株式が50%、アメリカ外株式、債券、不動産が有りますがこれは各年度で比率は変わりますが、年次基金はリスクは高く、恒久基金はリスクが低め、ポリオ・プラス基金につきましては債券100%の運用になっています。財団の支出項目はどのようなものが有るかと言うことですが、大きくは教育的分野(国際親善奨学金、GSE等)・人道的分野(個人向け補助金:個人の奉仕活動への補助金 海外ボランティア、マッチンググラント:海外で行う世界社会奉仕事業への補助金)・寄贈プログラム(GSE追加、1年のGSE、他地区への寄贈等)の3つに分かれています。過去私もこの財団に対し不振を持った時期がありました。200年～2002年の投資運用の損失が出たと言うことでこの損失は恒久基金寄付の元金は使わないと成っていますが実際は投資運用の失敗で恒久基金寄付を減らして、財団に対し不信感を持っていました。その部分については管理委員会のシステムを変えて投資に対する専門の会社やマネージャーを選任してこれを監視して行く、そして運用に対しチェックをしながら同じ間違いが無いように改革しています。但し、投資運用で有りますのでリスクはあります。しかし大きな損失をしないような形で歯止めがかかるのではないかとご理解をして今年度財団委員長を受け皆様をお願いをしている所でございます。米山奨学金につきましては、日本独自の米山奨学制度であり、日本最初のロータリークラブを創立した米山梅吉氏の功績を記念し国際理解と親善を深める為、東京RCが主として東南アジア諸国からの留学生に奨学金を支給、援助する民間最大の奨学団体です。詳細の説明は時間の関係上省略致しますので、お時間のある時に資料をご参照下さい。